

おはようございます。

イエス様がよみがえられてから50日目、ペンテコステの日、聖霊なる神様がイエス様の代わりとして天から降ってきて弟子たちの上に留まりました。聖霊を受けた弟子たちは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心でした。すると、多くの人たちが加わったと聖書には記されています。こうして、世界で最初のキリスト教の教会が始まりました。

そんなある日、ペトロとヨハネが神殿で祈るために出かけていくと、生まれたときから足が不自由な男の人が運ばれてきました。その男の人は、毎日「美しい門」と呼ばれていた門の近くで、神殿に来る人たちに施しを乞うために一日中座っていたのです。この人がそこを通ったペトロとヨハネに施しを乞うために声をかけると、ペトロはこう言いました。「わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい」。するとその人は、とたんに足がしっかりして、躍り上がって立ち、歩き出しました。そして神様を賛美しながら、神殿の中に入っていったのです。

そこにいた人たちはみんな、我を忘れるほど驚きました。するとペトロが、そこにいた人たちに向かって説教を始めました。「イスラエルの人たち、なぜこのことに驚くのですか。また、わたしたちが自分の力や信心によって、この人を歩かせたかのように、なぜ、わたしたちを見つめるのですか。アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神、わたしたちの先祖の神は、その僕イエスに栄光をお与えになりました。ところが、あなたがたはこのイエスを引き渡し、ピラトが釈放しようとして決めていたのに、その前でこの方を拒みました。聖なる正しい方を拒んで、人殺しの男を赦すように要求したのです。あなたがたは、命への導き手である方を殺してしまいましたが、神はこの方を死者の中から復活させてくださいました。わたしたちは、このことの証人です。あなたがたの見て知っているこの人を、イエスの名が強くしました。それは、その名を信じる信仰によるものです。イエスによる信仰が、あなたがた一同の前でこの人を完全にいやしたのです」。

ペトロがこう話していると、そこに祭司たちや神殿守衛長、サドカイ派の人々が近づいてきました。それが、今日の箇所です。ペトロが「イエス様が死者の中から復活した」と人々に伝えていたので、死者の復活を信じていなかった彼らは、ペトロとヨハネを捕らえて牢に入れてしまいました。その次の日、ペトロとヨハネは議員、長老、律法学者たちと大祭司一族が集まっている議会に引き出され、尋問を受けました。「お前たちは何の権威によって、だれの名によってああいうことをしたのか」。ペトロは答えました。「民の議員、また長老の方々、今日わたしたちが取り調べを受けているのは、病人に対する善い行いと、その人が何によっていやされたかということについてであるならば、あなたがたもイスラエルの民全体も知っていただきたい。この人が良くなって、皆さんの前に立っているのは、あなたがたが十字架につけて殺し、神が死者の中から復活させられたあのナザレの人、イエス・キリストの名によるものです。この方こそ、『あなたがた家を建てる者に捨てられたが、隅の親石となった石』です。ほかのだれによっても、救いは得られません。わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです」。

マルコによる福音書 12 章 1 節以下に「ぶどう園と農夫」のたとえが出てきます。ぶどう園を作った主人が旅に出ます。収穫の時になったので主人が旅先から自分の僕をぶどう園に送ると、農夫たちはその僕を袋叩きにして返します。主人は他の僕たちを何度も送りますが、ある者は殴られ、ある者は殺されてしまいました。そこで主人は、自分の息子なら敬ってくれるだろうと思い、息子をぶどう畑に送ります。すると農夫たちは、ぶどう園の跡取りである息子さえ殺してしまえば、ぶどう園は自分たちのものになるのだと相談し、息子を捕まえて殺し、ぶどう園の外に放り出してしまいます。イエス様は、このたとえ話を次のように締めくくります。【さて、このぶどう園の主人は、どうするだろうか。戻ってきて農夫たちを殺し、ぶどう園をほかの人たちに与えるに違いない。】そして、旧約聖書の詩編 118 編 22～23 節の言葉を引用します。『家を建てる者の捨てた石、これが隅の親石となった。これは、主がなさったことで、わたしたちの目には不思議に見える。』

このたとえ話は、イエス様が人々から捨てられ、十字架で殺されていくことを表しています。人々から捨てられ放り出された石が、家の土台となる隅の親石となった。イスラエルの国を建てるべき人々、今日の箇所では、議員、長老、律法学者たちが、この国の基礎としてはふさわしくないと行って捨てたイエス・キリストが、イスラエルの将来の希望を導く「隅の親石」となったのです。今日の聖書の箇所では、そのことを証言しようとしたペトロやヨハネも言論の弾圧を受けます。議会に引き出され、圧倒的な数と権威によって言論を封じ込めようとする。そのような支配者側の言論統制に対し、ペトロとヨハネは 19 節でこう反論します。「神に従わないであなたがたに従うことが、神の前に正しいかどうか、考えてみてください。わたしたちは、見たことや聞いたことを話さないではられないのです」。

さて、ペトロが語った言葉、『あなたがた家を建てる者に捨てられたが、隅の親石となった石』。人々に捨てられたイエス様が、世界を建て上げる隅の親石となった。このことは具体的に私たちの生活の中でどのような意味を持っているのでしょうか。

家を建てる者が捨てた石であるイエス・キリストが、隅の親石となった。隅の親石とは土台を意味します。この言葉は先ほども見ましたように、詩編 118 編に出てくる言葉です。この詩編の背景には、バビロン捕囚があったとされています。バビロン捕囚の際、イスラエルの国はバビロン帝国に滅ぼされてしまいます。エルサレムにいた人々は捕虜となって遠くバビロンの地に連れていかれます。神様の神殿のあった都エルサレムから離れてしまった彼らは、自分たちは見捨てられた者、自分たちの内には希望はないと感じていました。エルサレムから遠く離れたところで捕虜になっている自分たちは、神様からも見捨てられた存在である。神様がここにいてくださるはずがない。そう感じていたのです。けれども神様は、バビロンに捕虜となって連れていかれた人々、見捨てられた人々を用いてくださいました。彼らこそがやがて再びエルサレムへと帰っていき、エルサレムの都を再び建て上げていったのです。このように、主なる神様は見捨てられた者たちを用いて、イスラエルの国を復興してくださった。それが神様の御業なのです。見捨てられた者を用いてくださる神様は、十字架の上で見捨てられたイエス・キリストを用いてくださり、イエス様を復活させられました。そしてそこから初代教会を建て上げてくださったのです。まさに、『家を建てる者の捨てた石、これが隅の親石となった』のです。

先ほどの「ぶどう園と農夫」のたとえについて、ある牧師が書いた文章をご紹介します。

【人間成長のためのワークショップが開かれ、一人の聖職者がそれに参加した。彼は深刻な病に苦しんでいた。プログラムには「怒りの表現」というセッションがあり、手にゴムホースを持って電話帳を叩きながらまさに自分の怒りを叩き出していくというものであった。彼も他の参加者と同じように自分の境遇、家族、関係を持つ人間たち、そして自分自身と、隠され抑圧されていた怒りを自分の心の奥から叩き出していった。しかし、そのようにして彼が最後に叩き出していった怒りの対象は、神であった。死に脅かされていた彼は、そのような運命を与えた神、いや彼を殺そうとしていた神を、ゴムホースをもって叩かざるを得なかった。人間は神を殺さなければならない存在なのではないか。良し悪しを越えて地獄のような運命の束縛からの解放を求める人間の実態がそこにあるのではないか。

いったいこのたとえ話の残虐さはどこで救われるのだろうか。それは、ゴムホースでボロボロに破られ、引きちぎられていったのは十字架で血を流すイエス・キリストだということ、彼が我々の傷を負い、怒りを負い、我々への神の裁きを負ってくださったこと以外にはない。＜負う＞者の途絶えたところに、なお傷ついて負ってくださる方がおられる！人間に下される悲惨の只中に、あの主の十字架の故に、見ることの赦される癒しの世界がここにある。

こうして、死は確かに人を襲うが、主イエスとともに滅びに降る。しかし我々の視野の彼方より、主は生けるものとして来たり、この残虐な物語からの解放を我々に約束される。ぶどう園の物語はすべてこの約束に支えられている。】

こういう文章です。

教会はイエス・キリストを土台として建て上げられていきます。その土台であるイエス様は、十字架上で捨てられてしまったお方である。捨てられた石なのだ。私たちはそのことを決して忘れてはなりません。教会はその土台の上に建てられているのです。ですから教会は、この世において捨てられた者たちを切り捨ててはならない。神はこの捨てられた者たちを土台として教会を建てられるのです。

このイエス・キリストを隅の親石として立てられた初代教会は、揺るぎませんでした。議会に引き出されたペトロとヨハネは、たくさんの議員、長老、律法学者たちに囲まれ、議会という権威を振りかざして迫ってくる人々に向かって、臆することなく大胆に説教を語りました。イエス・キリストという土台を、隅の親石としていたからです。ですから彼らは、今後決してイエスの名によって話したり、教えたりしてはならないという議会からの言論弾圧を受けても、堂々としてこう答えたのです。「神に従わないであなたがたに従うことが、神の前に正しいかどうか、考えてみてください。わたしたちは、見たことや聞いたことを話さないではいられないのです」。

そのペトロは、10節でこう語っています。「あなたがたもイスラエルの民全体も知っていただきたい。この人が良くなって、皆さんの前に立っているのは、あなたがたが十字架につけて殺し、神が死者の中から復活させられたあのナザレの人、イエス・キリストの名によるものです。この方こそ、『あなたがた家を建てる者に捨てられたが、隅の親石となった石』です。ほかのだれによっても、救いは得られません。わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです」。

私たちが救われるべき名。天下にただ一つだけ与えられている名。それは、隅の親石で

あり、人々から捨てられた石、そして、神様が復活させてくださった石なのです。その名前、イエス・キリストという名前だけが、私たちに救いをもたらすことのできる本当の名前なのです。

私たちもこの名を信じて、歩んでいきたいと願います。

お祈りしましょう。